

名勝 星溪園

SEIKIEN JAPANESE PARK

秋の茶会

熊谷茶道協会

令和8年度文化の日事業



令和8年 **11/3** (火) (文化の日・祝)
午前10時～午後3時

[受付 午前の部 10時～11時30分 午後の部 12時～2時30分]

併 催 しつら 設え見学 にじりぐち [小間躰口より入席] [松風庵・香煎席]

会場 熊谷市名勝「星溪園」(埼玉県熊谷市鎌倉町32)

電話 048-522-9389 当日ご来園の方の駐車場はございません。
お車でのご越しの際は近隣の有料駐車場等をご利用ください。

熊谷市名勝「星溪園」の秋を彩るお茶会です。

お茶券費用:3,000円(三席・設え見学へのご参加として)

お茶券の購入については、熊谷茶道協会までお問合せください。当日券も受付にて販売致します。

熊谷茶道協会:柿沼 宗範
中島 宗真

電話 0493-23-4835(FAX兼)
電話 048-526-9561(FAX兼)
電話 048-536-5062

主催 熊谷茶道協会 熊谷市文化連合
共催 熊谷市 熊谷市教育委員会

熊谷市立江南文化財センター

星溪園の由来

元和9年(1623)、荒川の洪水により当園の西方にあった土手(北条堤)が決壊し、池ができたといわれています。その池は清らかな水が湧き出ることから、「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が星川の源となりました。明治の初め、竹井澹如が、そのほとりに別邸を設ける計画を立て、玉の池を中心に樹木を植え、名石を集めて庭園としました。明治17年(1884)に当時の皇后(昭憲皇后)が来訪され、大正10年(1921)には秩父宮が宿泊されたほか、渋沢栄一、大隈重信など多くの名士の来遊がありました。昭和25年(1950)、熊谷市が譲り受け、昭和29年(1954)に市文化財名勝に指定されました。平成に入り、建物と庭園の整備がなされ、建物は数寄屋風を取り入れ、落ち着いた和の雰囲気を併せ持った文化教養の場として復元されました。

星溪園の石造物

星溪寮・松風庵・積翠閣の3つの建物と庭園で構成されており、庭園には、名石・古塔が配置され、池泉回遊式庭園となっています。

竹井澹如が集めて配置した園内の石造物をいくつかご紹介いたします。

天柱石

てんちゅうせき



長: 214cm、幅19cm

現在「天柱石」と呼ばれていますが、かつては「斧石(こうがいせき)」と呼ばれていました。

文禄の役(1592-1533)に際し、加藤清正が朝鮮から、「袖振り石」とともに持ち帰ったといえられる石です。

加藤清正が豊臣秀吉に献上し、その後忍城主の松平忠吉が譲り受けたとされ、明治4年に竹井澹如が松平家から引継ぎ、星溪園に設置しました。

元は一つの石でしたが、忍城へ運ぶ際、5つに割れてしまったと言われており、他の3つの天柱石も、庭園内に配置されています。

星溪園記碑

せいけいえんきひ



再建碑: 令和5年造立



旧碑: 昭和8年造立

新碑: 高: 100cm・幅110cm、旧碑: 高105cm・幅147cm

星溪園の由来が記された碑。撰文は、竹井耕一郎、書は酒井天外(1875-1942)。

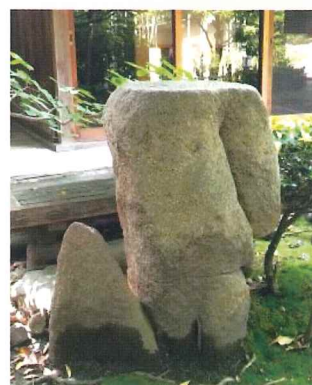
竹井澹如(1839-1912)が池を整備し樹木を植え庭石を配し、茶室を設けたことが記されています。

刻まれている漢詩は、小野湖山が、明治12年(1879)7月に星溪園を訪れた際に詠んだものです。

竹井耕一郎(1868-1945): 法学者、文人。竹井澹如の長男で、星溪と号しました。漢籍の造詣深く、詩文に優れていました。昭和5年(1930)には、積翠閣を新築し、熊谷を文化的な活動拠点としました。

袖振り石

そでふりいし



高: 92cm、幅: 56cm

現在「袖振り石」と呼ばれていますが、かつては「誰ヶ袖手水鉢」と呼ばれていました。

文禄の役(1592-1533)に際し、加藤清正が朝鮮から「天柱石」とともに持ち帰ったといえられる石です。加藤清正が豊臣秀吉に献上し、その後忍城主の松平忠吉が譲り受けたとされ、明治4年に竹井澹如が松平家から引継ぎ、星溪園に設置しました。

ご利用案内

- 庭園の開園時間
午前9時から午後5時まで(11月1日から2月末日までは午後4時まで)
- 建物の利用時間
午前9時から午後9時まで(茶室・立礼席は午後5時まで)
- 休園日
月曜日(この日が休日の場合は翌日)
年末年始(12月27日から1月4日まで)
(入園は無料。建物等施設を利用する場合は有料)

交通のご案内

- JR高崎線熊谷駅から徒歩18分 / 秩父線上熊谷駅から徒歩3分

